

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800194		
法人名	医療法人 豊寿会 川井田医院		
事業所名	グループホーム 皇子原	ユニット名	皇子原1号棟
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓173-3		
自己評価作成日	平成26年4月28日	評価結果市町村受理日	平成26年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kani=true&id=4571800194-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年6月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ自分で出来る事は自分でやっていただき、生き甲斐作りに努めている。室内にこもりっきりにならないように、天気の良い日には屋外の散歩等を取り入れている。隣接している医院と常に連携をとりながら、最適な環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム皇子原は、月1回、利用者が参加した行事内容などを写真入りのホーム便り(皇子原新聞)に添えて、職員が利用者一人ひとりの様子や気づいたことを記名の手紙にして家族に届けており、家族と職員との信頼関係を築いている。職員は、常に利用者本位のケアを心掛けており、声かけする時も本人の言動を否定せず、本人が自己決定しやすい言葉掛けに努めている。また、利用者本位に関心を払い、食の進まない利用者に食事への関心を引き起こすための工夫をし支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を念頭に入れ、ケアを行っている。	管理者・職員は、地域密着型サービスの意義や役割を理解しているが、理念は平成2年創設時に作られたままである。	理念が地域や利用者のニーズ、ホームの状況の変化によって現状に合ったものとなるように、職員全員で話し合い、見直しや作り変えをするなどの取組を期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	希望に合わせて理容室の利用を行ったり、車椅子の利用者様なども近所の野菜屋やスーパーへの買い出しに行ったり、納涼祭などで地域の方（保育園など）に参加して頂いている。	近隣の保育園児の来訪がある。ホームで行われる納涼祭などの行事案内のチラシを地域住民に配布して、来訪してもらっている。利用者の中には、地域の敬老会に参加するなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一回、ご家族に向けて認知症やその他高齢者特有の疾患、季節ごとの感染症などについて発信を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んだ行事や今後取り組む行事の報告を行っており、その際に民生委員や役場の方に他施設の取組などを参考に意見を頂いたり、ご家族の思いを聞き、次回に生かすようにしている。	運営推進会議では、ホームからの報告と情報交換を行い、それをサービス向上に生かせるよう努めているが、出席参加メンバーが少なく限られている。	運営推進会議は、メンバーを通じて地域の理解と支援を得るための貴重な機会であることを認識し、利用者、家族、地域密着型サービスの知見者など、参加者への更なる働きかけを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつでも連絡を取れるようにしており、定期的に運営推進会議で活動報告を行っている。	管理者は、町行政担当者と日頃から連携をとり、利用希望者の情報交換や相談等に実直に対応してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員全体で繰り返し勉強会を行っており、日中も施錠を行わず、ご家族様にも状況とスタッフの取り組みを小まめにご報告し、支援を行っている。	管理者・職員は、身体拘束に関する勉強会を通じて、何が拘束に当たるかや弊害について理解をしている。利用者の安全に配慮しながら、日中は玄関の施錠をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際に起こった事例を交えながら、勉強会を毎年行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外の勉強会に参加したり、ミーティングなどで議題に取り上げ、学ぶ機会を定期的に作っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要なときに適宜ご家族への説明を行い、了承をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会で意見交換を行い、また、面会時に気になられたことがあればそれについてスタッフで話し合いを設け、改善を行っている。		家族会を設けている。職員は、月1回発行するホーム便りに添えて、利用者一人ひとりの様子や気づいたことを手紙で家族に届けている。家族の来訪時には、気軽に意見を言ってもらえる雰囲気がある。居室の隙間風や衣類の取り違えに対する意見等を職員間で話し合い、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで日々のケアについてや環境についてなどスタッフからの意見をききとり、反映できるよう心がけている。		管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけている。職員の勤務体制に関する要望や行事内容の提案、食の進まない利用者に対する提案などを運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や各自の努力について把握し、また、スタッフの言葉を聞き取って職場環境についてなど反映できるよう、管理者に報告し改善に繋げられるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフそれぞれ経験年数などを配慮して、年間計画としてスタッフを法人内・外の研修や勉強会に参加できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士で集まり、勉強会を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からご本人様から話を聞き、入所後に安心して頂けるようなケアを提供できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族から話を聞き、また、入所後も定期的にご家族と関わりをもつことで、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様のニーズや身体状況、ご家族の希望などを基に主治医や看護師、リハスタッフ、その他のアドバイスを適宜組み入れながら支援を行えるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の心身状況や嗜好に合わせて、一緒にできること、していただけることを把握し、日々スタッフや他入所者様と行って頂けるよう努めている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様やご家族の要望などに合わせて、ご家族にご協力頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好まれるもの、馴染まれていたものを把握し、ご友人の面会や馴染みの場所への訪問・利用をご家族にも協力して頂きながら行うようにしている。		正月には、神社に初詣に出向いている。敷地内のデイケアに知人に会いに行ったり、家族の協力を得て寺や墓参り、理・美容室に出かけるなど、なじみの場や人をつなぐ取組を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の性格、ほか利用者様との関係性を把握し、時にはスタッフが間に入りながら、利用者様同士の関係がよりよいものとなるよう支援に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退所後のフォローを行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それまでの生活歴や、日常での言動、ご家族からの情報などを基に、利用者様本意のケアを行えるよう努めている。		職員は、利用者の発言や行動を否定せず、優しい声かけでの会話を大切にしている。利用者の手を優しく握ったり、背中にそっと触れながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から情報収集を行い、入所後もご家族やご本人から情報収集・把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを密に行い、日々の様子や変化、できることなどについて、把握できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族を始め、必要に応じて主治医や看護師、リハスタッフなどとも情報交換・アドバイスを受けて、そのときの状況に適した介護計画を作成できるよう努めている。		センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を利用して情報収集をしている。本人や家族の思い、意向を聞き、3ユニット全ての職員の意見や気づき、アイデアを出し合い、本人本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個人記録を記入し、また、特記事項については申し送りノートでも申し送ることで、スタッフ間で情報を共有したり、ミーティングで取り上げるなどして適宜介護計画を見直せるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族のニーズに合わせスタッフと話し合い、必要に応じて予定を組んだり、他部署の協力を仰ぎ、柔軟に対応できるよう努めている。			

宮崎県高原町 グループホーム皇子原(1号棟)

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様やご家族様、面会にこられた知人の方などから、以前の暮らしを聞き取り、できるだけ変わりのない、ご本人様の望まれる形で地域資源の活用を行えるように協力を仰いでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは常に連携を取れる体勢を取っており、他院受診時も、ご本人様の以前受診されていた病院やご家族などの希望を反映し、適切な医療を受けて頂けるよう努めている。		これまでのかかりつけ医を支援している。本人、家族の同意を得て、協力医との連携も築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態変化に気づいた時点で看護師に報告し、指示を受けるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会を行ったり、入院先の病院関係者と適宜情報交換を行うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とご家族様も一緒に、終末期の対応について早期に話し合い、方針を決めるようにしている。		重度化や看取りに関する指針が整備されている。医師、職員が連携をとり、随時、本人、家族の意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや外部での勉強会などを通し、定期的に緊急時対応や事故発生時の対応について学ぶようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に施設内の状況を見てもらったり、火災報知器の使用方法について再確認を行ったり、定期的に避難訓練を行っている。		消防署職員の指導を受け、通報訓練など、同敷地内の病院職員と合同で避難訓練や自主訓練を年2回行っている。避難場所が確保されており、地区消防団員参加の協力体制もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人であることを常に念頭に入れ、丁寧な言葉遣いを行うよう努めており、言葉掛けについてミーティングなどで振り返るようにしている。		職員は、利用者を年長者として敬意を払い、援助が必要な時も、本人の気持ちを大切にケアすることを心がけ、自己決定しやすい言葉掛けをするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の要望を表出しやすい言葉掛け、環境作りを心がけ、表情などにも注意して思いや希望をききとり、実現できるような支援を行えるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間や食事量、やりたいことなどをできる限りご本人様の要望に合わせて生活して頂けるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や化粧、髪の設定など、ご本人の好みに合わせて行えるように、要望に合わせて支援できるよう努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お菓子やおかずなど、日々の言動から好まれる物を把握して提供できるように心がけ、食事準備や片付け時なども、できることはスタッフと一緒に頂くようにしている。		食材の買い物や食器洗いなどを無理強いせず、利用者が参加しやすい配慮をしている。食が進まない利用者におにぎりを提供するなど、食事への関心を引き起こすための工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量と水分量を記録に残し、1日トータルを記録することで状況を把握し、血液検査の結果なども参考に、メニューや量をご本人様に合わせて提供するようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをご本人様の能力に合わせて行って頂いている。			

宮崎県高原町 グループホーム皇子原(1号棟)

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの能力や排泄パターンを把握し、声かけなども行いながら、できる限り自立に近づけるような支援を行っている。		排せつチェック表を利用している。利用者の習慣や排せつパターンに応じた個別の支援を行っている。入居当初、オムツを使用していた利用者が、昼間はリハパンツ、布パンツに移行できている事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔も把握しながら、水分量や運動量を増やしたり、便通をよくする食べ物を提供するなど、状況に合わせて便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせて、決まっている日でも入浴を中止したり、別の日に行えるようにしている。		体調や気分により入浴できない時は、他のユニットで入浴することができる。男性利用者に一番風呂を勧めるなど、一人ひとりの生活習慣や希望に配慮して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターンにあわせて昼寝をして頂いたり、夜間に良眠できるように日中の活動を工夫していくようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し、状態に合わせて看護師と相談しながら薬の変更や増減を行うなど、変化に対応できるように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をご本人様やご家族などから情報収集し、施設での生活の中に反映できるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りや買い物、簡単な散歩など、一人ひとりの希望に合わせて外へ出られるよう、ご家族の協力も仰ぎながら支援を行っている。		日常的に洗濯物の取り入れや庭園での外気浴を行っている。近隣の散歩や買い物、春には忠霊塔への花見など、普段は行けないような場所へのドライブなど、本人に合わせた移動の配慮をしながら外出を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはレク費として事務で管理を行っているが、希望のある方にはお金を所持し、必要なときに使用できるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせて電話などを行えるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花や掲示物を飾ったり、皆さんで撮った写真を飾り、状況に合わせて心地よい環境になるように、照明や室内温度の調整を行っている。		廊下や食堂兼居間は換気がされ、異臭も無い。壁には利用者が見やすい位置に大きめの日めくり暦が掲示されている。テーブルの花瓶にはあじさいが生けられ、季節感が出るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	やりたいことができやすいように、ソファやテーブルなど、利用者様ごとに座席を適宜移動して、対応している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力頂き、使われていた家具やご家族の写真、馴染みの物などを居室におき、居心地よく過ごせるよう努めている。		寝具、衣装ケース、テーブルや椅子など、利用者にとってなじみの品々や大事な物が持ち込まれており、利用者の居心地に配慮している。利用者の一人は、娘さんが初めての給料でプレゼントしてくれたテーブルのエピソードを話され、職員は思いも大切に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力を把握し、利用者様のバリアになる物は除いたり、配置を調整して、できる限り自立に近づけるよう工夫を行っている。			